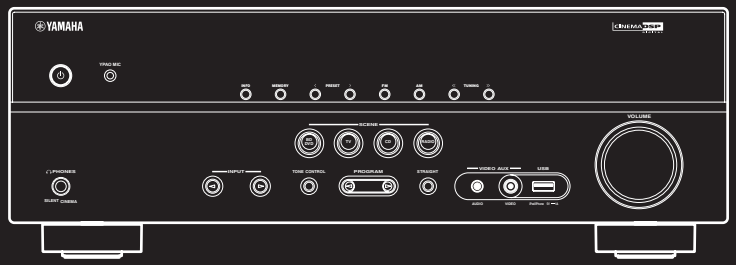
J

YAMAHA

AV レシーバー

RX-V373

かんたん設置ガイド



本書では、5.1 チャンネルシステムを設置して、
本機で BD/DVD のサラウンド音を再生するまでの手順を案内します。
詳しい説明は、別冊の「取扱説明書」をご覧ください。

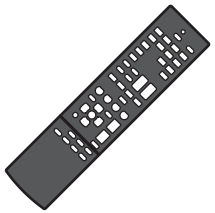
本書と「取扱説明書」の PDF 版を以下のウェブサイトからダウンロードできます。
http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/

1 準備する

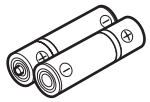
付属品を確認する

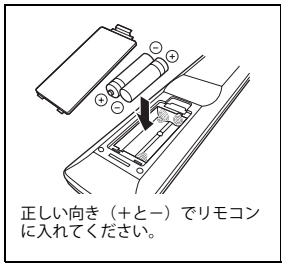
すべて揃っていることをお確かめください。

□ リモコン



□ 単 4 乾電池（2 本）





正しい向き（＋と－）でリモコンに入れてください。

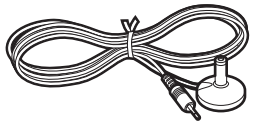
□ AM アンテナ



□ FM アンテナ



□ YPAO 用マイク



□ 取扱説明書



□ かんたん設置ガイド（本書）



必要なケーブル

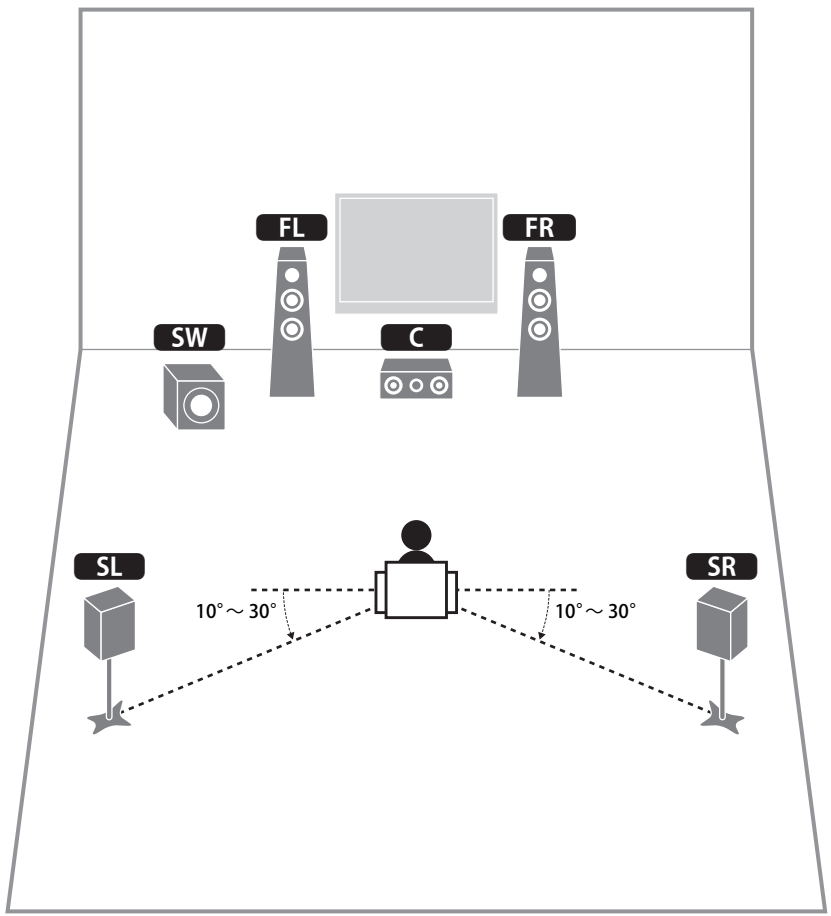
本書の説明どおりに接続する場合、以下のケーブルを別途ご用意ください。

- スピーカーケーブル（5 本）
- HDMI ケーブル（2 本）
- モノラルピンケーブル（1 本）
- 光デジタルケーブル（1本）※ テレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）対応の場合は不要

2 スピーカーを部屋に配置する

下図を参考に部屋にスピーカーを配置してください。

5.1 チャンネル以外のシステムでお使いになる場合は「取扱説明書」をご覧ください。



FL フロントスピーカー（左）
FR フロントスピーカー（右）
C センタースピーカー
SL サラウンドスピーカー（左）
SR サラウンドスピーカー（右）
SW サブウーファー

3 スピーカー / サブウーファーを接続する

- スピーカーはインピーダンスが6Ω以上のものをお使いください。
- サブウーファーはアンプ内蔵のものをお使いください。
- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。また、サブウーファーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れたりしないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れると、前面ディスプレイに「Check SP Wires」と表示されます。

スピーカーケーブルを接続する

通常スピーカーケーブルは 2 芯（＋と－）で 1 本になっています。片方で本機とスピーカーの－（マイナス）端子どうし、もう一方で＋（プラス）どうしを接続してください。色で区別されている場合、黒を－（マイナス）側、もう一方を＋（プラス）側と決めておくと間違わずに接続できます。

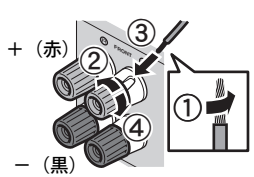
（フロントスピーカーの接続）

① ケーブル先端の絶縁部（被覆）を 10mm ほどはがし、芯線をしっかりとよじる。

② スピーカー端子をゆるめる。

③ 端子側面（右上または左下）のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。

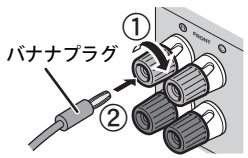
④ 端子を締め付ける。



バナナプラグを使用する場合

① スピーカー端子を締め付ける。

② 端子にバナナプラグを差し込む。



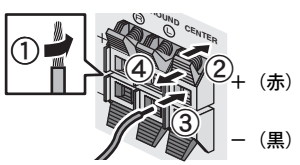
（センター / サラウンドスピーカーの接続）

① ケーブル先端の絶縁部（被覆）を 10mm ほどはがし、芯線をしっかりとよじる。

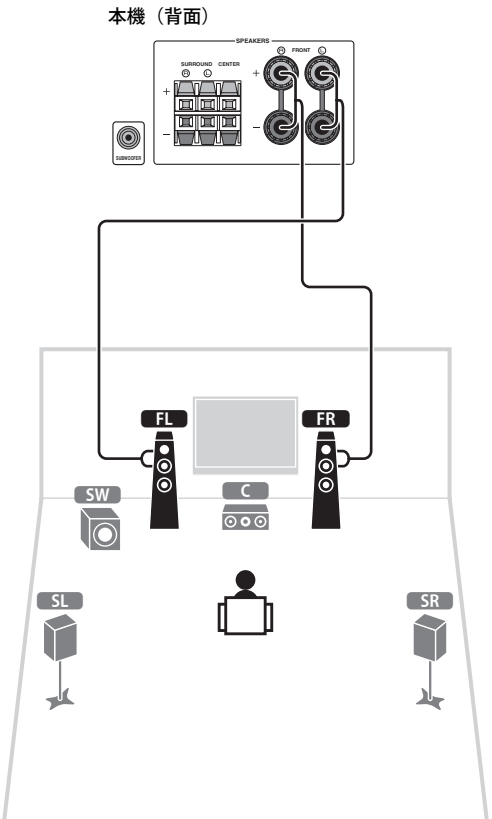
② タブを押し続ける。

③ 端子の穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。

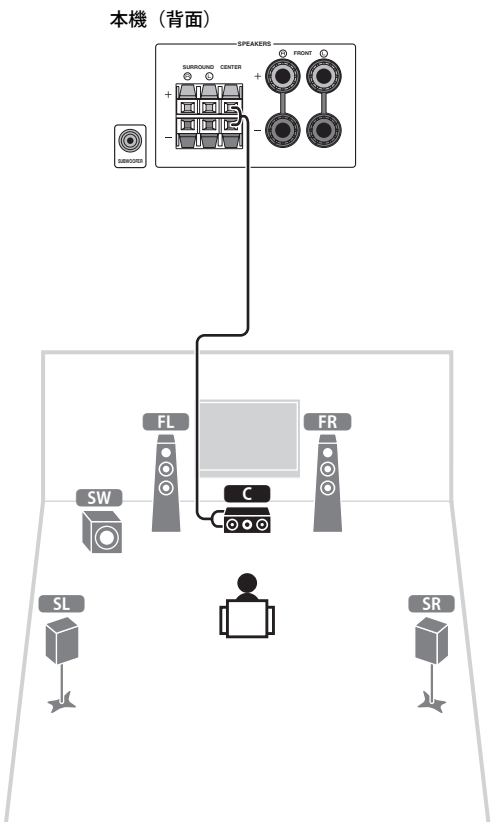
④ タブを離す。



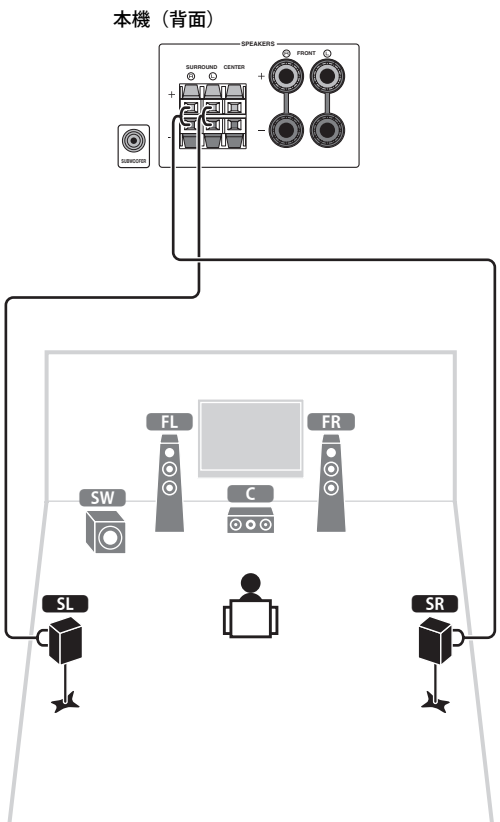
1 フロントスピーカー（FL/FR）を FRONT（Ⓛ/Ⓡ）端子に接続する。



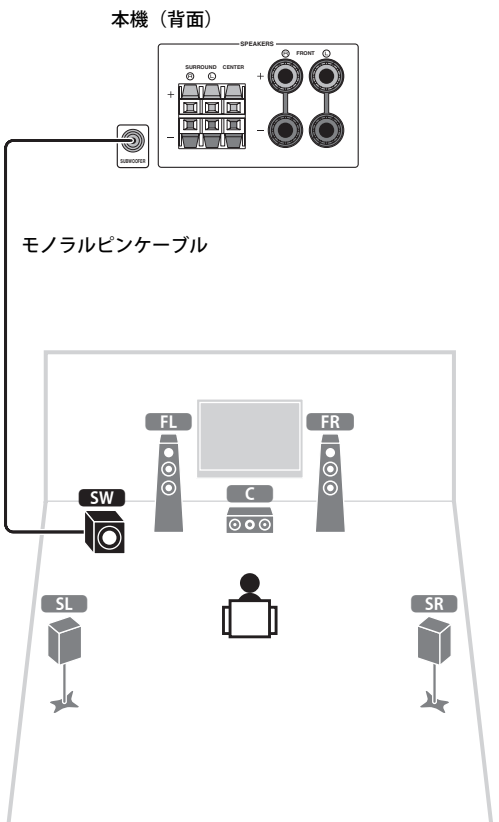
2 センタースピーカー（C）を CENTER 端子に接続する。



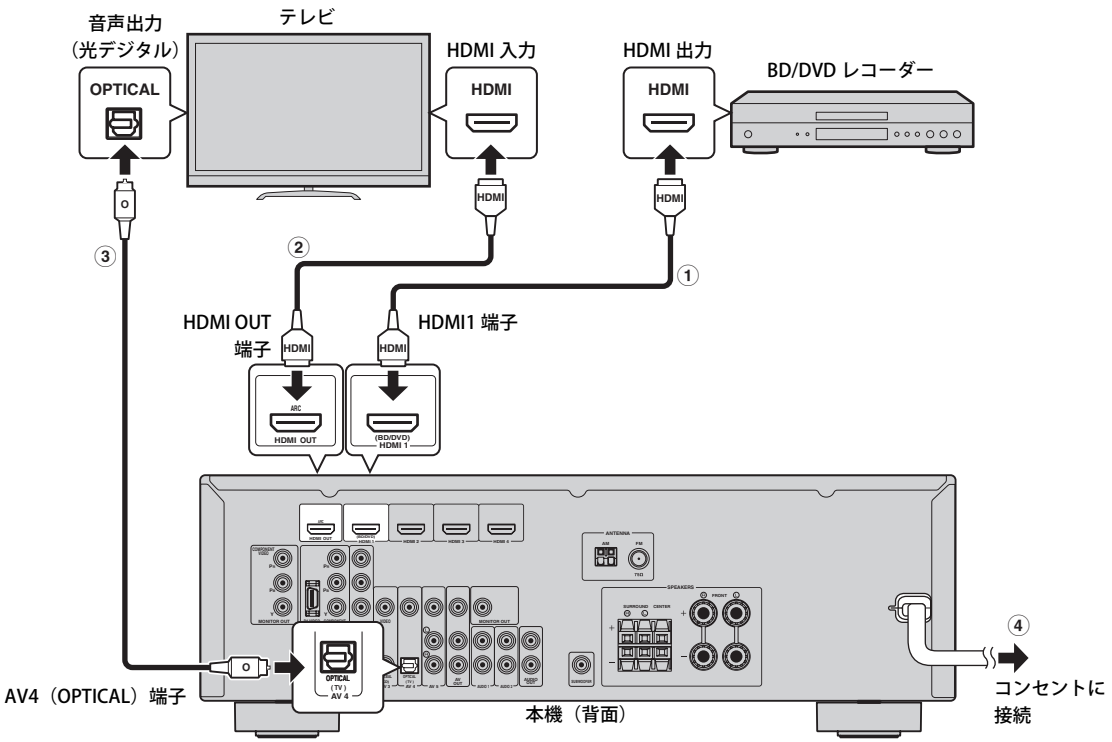
3 サラウンドスピーカー（SL/SR）を SURROUND（Ⓛ/Ⓡ）端子に接続する。



4 サブウーファー（SW）を SUBWOOFER 端子に接続する。



4 外部機器を接続する



1 外部機器を本機に接続する。

① HDMI ケーブルで BD/DVD レコーダーと本機を接続する。

HDMI ケーブルで BD/DVD レコーダーとテレビを直接接続している場合は、テレビからケーブルを取り外して、本機に接続してください。

② HDMI ケーブルでテレビと本機を接続する。

③ 光デジタルケーブルでテレビと本機を接続する。

この接続によりテレビ音声を本機で聴くことができます。オーディオリターンチャンネル（ARC）対応のテレビをお使いの場合は、この接続は不要です。

④ 電源コードのプラグをコンセントに差し込む。

- ラジオのアンテナや、ほかの機器を接続する場合は「取扱説明書」の「準備する」をご覧ください。

2 本機、テレビ、BD/DVD レコーダーの電源を入れる。

3 テレビのリモコンを使って、テレビ側の入力を本機からの映像に切り替える。

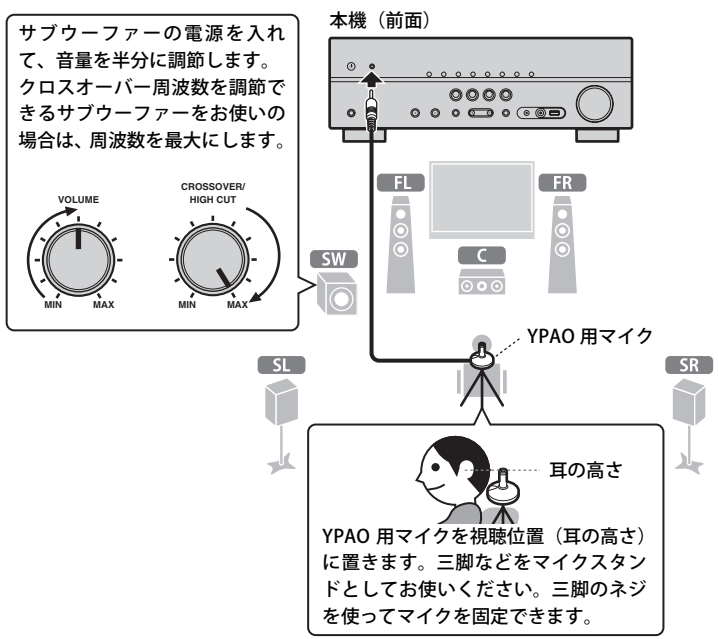
これで接続は完了です。次ページでスピーカー設定の自動調整を行ってください。

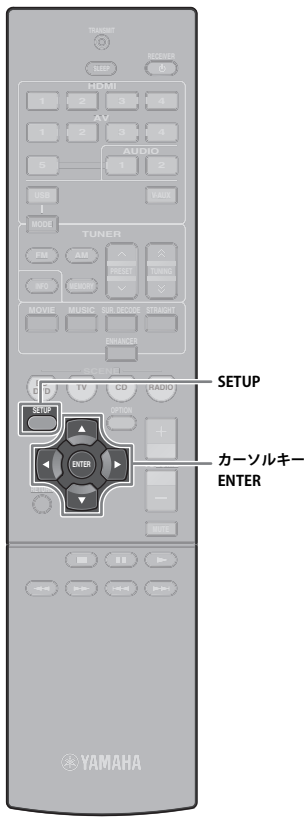
5 スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します（YPAO：Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer）。

- 測定中は大きな音が出力されます。小さなお子様がいらっしゃる場合は十分にご配慮ください。また、ご近所への迷惑とならないよう夜間の使用は控えてください。
- 測定中は音量を調節できません。
- 測定中は部屋を静かに保ってください。
- ヘッドホンは接続しないでください。
- 測定中は部屋の隅に移動するか退出して、スピーカーと YPAO 用マイクの間を遮らないようにしてください。所要時間は約 3 分です。

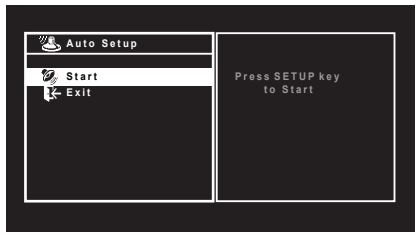
YPAO を始める前の準備





1 YPAO 用マイクを前面の YPAO MIC 端子に接続する。

次の画面が表示されます。



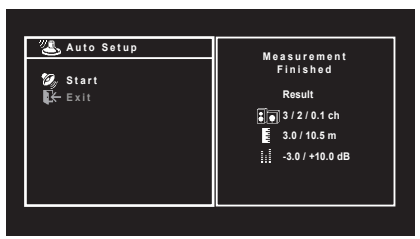


- 操作を中止する場合は、測定前に YPAO 用マイクを取り外すか、カーソルキーで「Exit」を選び ENTER キーを押します。

2 測定を始めるには、SETUP キーを押す。

10 秒後に測定が始まります。

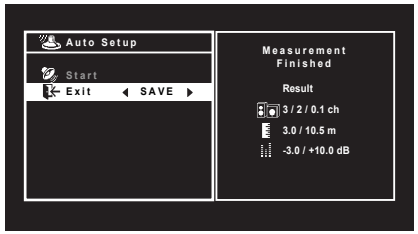
測定が終わると、次の画面が表示されます。





- エラーメッセージ（E-1 など）や警告メッセージ（W-2 など）が表示された場合は「取扱説明書」の「エラーメッセージ」または「警告メッセージ」をご覧ください。
- 警告メッセージ「W-1：Out of Phase」が表示された場合は『「W-1:Out of Phase」が表示された場合』をご覧ください。

3 カーソルキーで「SAVE」（Save）を選び、ENTER キーを押す。





4 YPAO 用マイクを本機から取り外す。

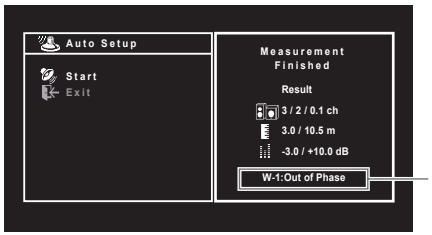
これでスピーカー設定は完了です。

YPAO 用マイクは熱に弱いため、高温になる場所（AV 機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。

「W-1:Out of Phase」が表示された場合

以下の手順でスピーカーの接続を確認してください。

スピーカーの種類や設置環境によっては、正しく接続されていても警告メッセージ「W-1：Out of Phase」が表示されることがあります。



① 前面ディスプレイのスピーカー表示で点滅しているスピーカーを確認する。



② 該当スピーカーのケーブル接続（＋と－）を確認する。

正しく接続されている場合：

測定結果をそのまま保存して問題ありません。

手順 3 以降を実行してください。

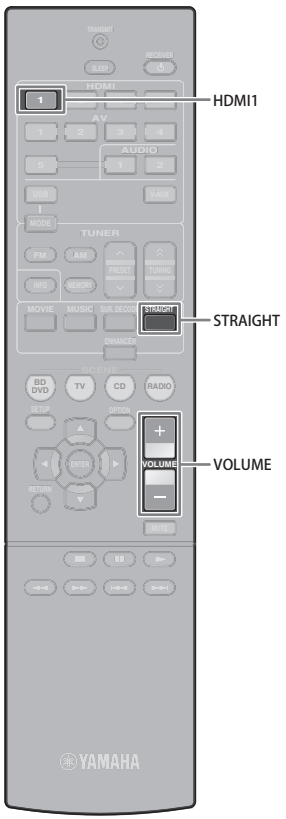
間違って接続されている場合：

本機の電源を切ってからスピーカーケーブルを接続し直して、もう一度 YPAO を実行してください。

6 BD/DVD を再生する

実際に BD/DVD を再生してみます。

サラウンド感を体感するために、マルチチャンネル音声（5.1ch 以上）が収録されているディスクの再生をおすすめします。



1 **HDMI1 キーで本機の入力を「HDMI1」に切り替える。**



2 **BD/DVD レコーダーで BD/DVD を再生する。**

3 **STRAIGHT キーを繰り返し押して「STRAIGHT」を選ぶ。**



- 「STRAIGHT」（ストレートデコード）を選ぶと、ディスクに収録されている各チャンネルの音声が各スピーカーからそのまま出力されます。

4 **VOLUME キーで音量を調節する。**



これで 5.1 チャンネルシステムを設置して、本機で BD/DVD のサラウンド音を再生するまでの手順は完了です。

音声がサラウンドにならない場合

マルチチャンネル音声を再生してもフロントスピーカーからしか音が出ない

BD/DVD レコーダー側のデジタル音声出力設定をご確認ください。

PCM など、常に 2 チャンネルで出力する設定になっている可能性があります。

音が出ないスピーカーがある

「取扱説明書」の「故障かな？と思ったら」をご覧ください。

さらにこんな機能も！

ほかにもたくさんの機能があります。

別冊の「取扱説明書」をご参照のうえ、本機の性能を十分にご活用ください。

BD/DVD レコーダー以外の機器を接続する

CD プレーヤーなどのオーディオ機器、ゲーム機やビデオカメラなどさまざまな外部機器を接続できます。

好みのサウンドを選ぶ

映画、音楽、ゲーム、スポーツ番組など、視聴する内容に合わせてお好みの音場プログラム（シネマ DSP）やサラウンドデコーダーを選べます。

iPod の曲を再生する

iPod 付属の USB ケーブルを使って、iPod の曲を本機で再生できます。

■ FM/AM ラジオを聴く

■ USB 機器の曲を再生する

詳しくは「本機でできること」をご覧ください。

PRINTED WITH SOY INK

ヤマハ株式会社

© 2012 Yamaha Corporation

Printed in China ZA51120